

シグマ研究委員会核データ専門部会

核データ検索システムワーキンググループ議事録

日時 昭和49年7月25日 13時30分～17時15分
場所 日本原子力研究所東海研究所研究2棟222号室
出席者 五十嵐信一(原研) 金森 善彦(三井造船)
川合 将義(NAIG) 河原崎雄紀(原研)
中川 庸雄(原研) 中嶋 龍三(法大)
成田 孟(原研) 西村 和明(原研)
更田豊治郎(原研)

議 事

1. 前回議事録の確認
2. 49年度計画の検討

前回会合の際挙げられていた49年度計画についてSPLINTに関する作業も含めて検討した。

2-1 新たなシステム作りについて

今後作業の対象となり得るシステムについての議論をし次の様な結論になった。

○ SPLINTのグラフィック化

原研の計算機が1年後に変わる予定なので、この作業に今から手がける事は適当でない。

○ NESTORのインデックス作成

現段階においては優先度の高い作業とは言えない。

○ COMFORDについては(以前)として pending とする。

○ この他 Level scheme の格納検索システム、文献に関する格納検索システム、データの3次元表示システム等についての議論もなされたが、具体的な作業計画には至らなかった。

。さらに、他のワーキンググループ例えば、JENDLの Compilation Group からのリクエストに応じたシステム作成も考えられるといったことも検討された。

2-2 SPLINTについて

前回会合で決まっていた各担当核種についてのプロットを持ち寄って検討した。今後、テストランについては、今担当している核種のプロットが完全に終わった時点で終了とする事にした。期限は2ヶ月とする。また今後SPLINTによってプロットされたグラフは一貫して五十嵐氏が担当して保管する事を確認した。グラフを切り離す場合にはグラフの最後(文字も含めて)から1cmの所で切ることにする。

今後SPLINTをCCDNやイスブラへ送る事を検討する事にした。またSPLINTのアウトプットをなんらかの形でまとめる事について、案があったら核データ研に連絡する事を決めた。

3. 次回

事務局に一任する。